

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

| | |
|---------------|---|
| 1 実践テーマ | 【 III・V 】 |
| 2 実施対象者 | 京都市立西ノ京中学校 第1学年（127名） |
| 3 展開の形式 | <p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p> |
| 4 目標 (ねらい) | <p>・社会がどう変われば障がいのある人々が住みやすくなるかを考える機会とする。</p> <p>・車いす体験や交流試合、選手たちとの対話を通じて障がい者に対する理解を深め、人権意識を高めて、自分の生き方を考える機会とする。</p> <p>・車いすバスケットボール競技を通して、2020年オリンピック・パラリンピックへの関心を高める機会とする。</p> |
| 5 取組内容 | <p>1. 事前学習</p> <p>① ビデオ「パラリンピック開幕・車いすのチアリーダー」視聴（1月16日）</p> <p>② アイマスク体験・・・校舎の階段を使ったアイマスクを使用した生徒を介助する体験（1月17日）</p> <p>2. 車いすバスケットボール体験（1月18日）</p> <p>(1) 選手紹介・模範演技・車いす体験</p> <p>(2) クラス対抗試合</p> <p>(3) 選手代表のお話</p> <p>(4) 生徒代表お礼の言葉</p> <p>(5) 感想文</p> <p>3. 事後学習</p> <p>4時間の人権学習をふりかえる。</p> |



| | |
|---------------------------------|---|
| <p>6 主な成果</p> | <p>生徒達は、車いすバスケットボールの体験や講演、さらにその前後の様々な体験を通して、知ること、見ること、感じること、人とつきあっていくことで自分自身を変えていく大切さを感じたと思います。以下は生徒の感想を要約したものです。</p> <p>講演を聞いて、自分が少しでも思いやったり、気をつけたりすることで障がいのある人たちが暮らしやすい世界になることがわかりました。自分が絶望的な場面でも前を向いて歩き続ければ、よい仲間とも巡りあえると感じました。</p> <p>今自分にできることがたくさんあることが、幸せなことだと思いました。障がいのある方が少しでも安心できる環境をつくっていくことが、今の世界に必要なことのひとつだと感じました。自分にできることを探して実行します。</p> <p>車いすには乗ったことがなかったので、回転することが難しかったです。車いすをふだんから使用されている山本さんも、道にごみが落ちていたり、自転車が置いてあったりすると厳しいとおっしゃっていたので、ごみを拾う、捨てるといった当たり前の行動ができる人になります。</p> <p>車いすバスケットボールは実際難しく見えたけど、離れているゴールにシュートが入ったときや、直向きなプレーを見たとき、本当に嬉しかったです。協力して試合をすることの大切さもより感じました。</p> |
| <p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p> | <p>人権学習を3日連続で行い(最終日に車いす体験)、生徒の意識が薄れないうちに様々な体験をすることができました。効果はあったように思います。</p> |
| <p>8主な課題等</p> | <p>競技用車いすを借りる場合の、他校との日程調整や運送費用の問題</p> |
| <p>9来年度以降 の実施予定</p> | <p>車いすバスケットボールは引続き行う。</p> |